

ホジェン語-kuneの注釈：使役態か許容形か

朴 相澈 (ソウル大学)

0. 目次

- (1) 研究動機
- (2) 先行研究の検討
- (3) 中間要約
- (4) 使役態-wu-と-kune-の区別：直接使役と間接使役
- (5) 被使役主標識の多様性：意図性(volition)及び統制性(control)の程度
- (6) 要約とホジェン語の使役態の歴史的変化についての仮説

1. 研究動機

- 韓国研究財団の支援を受けたプロジェクト「絶滅危機のツングース語3個言語の転写と注釈」(2021-2024)を遂行として2000年代に金周原教授と同僚研究者たちが採録したホジェン語資料の注釈中、-kuneに対しての先行研究の不一致を発見
- 李林静(2006)が先行研究を批判し-kuneを使役態として記述したことに同意する一方、被使役主(causee)が主格~対格~与格の様々な形態で出現している理由の説明が必要

2. 先行研究の検討

- 下記の先行研究を対象とし、-kuneの記述と共に使役態に関する記述を検討

* (1-3)は、李(2006)で批判的に検討しているが、本研究では先行研究で提示された-kuneの全ての例を扱っているという違いがある。

*本研究では扱っていないが、凌純聲(1934)でも-kuneが1例挙げられているが、受身の意味として出現している。

- (1) 安俊(1985). 赫哲語簡志. 北京: 民族出版社.
- (2) 尤志賢・傅万金(1987). 简明赫哲語漢語對照讀本. 哈爾濱: 黑龍江省民族研究所 .
- (3) Zhang Yanchang, Zhang Xi & Dai Shuyan (1989). The Hezhen language . Changchun: Jilin University Press .
- (4) 李林静(2006). ホジェン語の動詞構造. 千葉大学.

<表1> 先行研究の概要

	-kuneの文法範疇	被使役主(causee)	使役態
(1)安(1985)	允許式	主格	-wu-
(2)尤・傅(1987)	允許式・使役態	主格・対格・与格	-kune-
(3)Zhang et al. (1989)	3rd person imperative	主格・対格	無し
(4)李(2006)	使役態	対格・与格	-kune-

- kuneを(1-3)は命令法(imperative mood)の標識、(4)は使役態(causative voice)の標識と分析しているという大きな違いがある

- また、(1)では使役態-wu-を記述しているが、(2-4)は記述していない

2.1. 先行研究への李(2006)の批判

- 李林静(2006: 37)で引用した安俊(1985: 50)の“允許式”-kuneの例文

niani tomaki beijiN-tki ene-kune.

彼 明日 北京-比格 行く-kune

彼を明日北京に行かせろ！

"もう二つの先行研究もこの-kune という接辞を話し手が第三人称への許可や命令を表すものとしている。しかし、-kune という接辞はあくまで使役を表す派生接辞で、命令を表すのは-kune に後続する-φ接辞である。結局文全体は第三人称に対する命令ではなく、聞き手(第二人称)に対する命令となっている。それゆえに、どの訳文も日本語の「～させろ」と平行している。「～させろ」においても、命令を表しているのは「させ」のほうではなく、その後の「ろ」である。したがって、このような「許容形」を立てることができない。"

- 李(2006: 87-89)で記述した使役接辞の-kune-

"3.2.1.1 使役

接辞は-kune-である。使役接辞は動詞のとる項を 1 つ増やすものである。

(157) eji minu-we lao omi-kune-re. (0408CY07)

否命 私-対格 ずっと 飲む-kune-否命

私にずっと飲ませるなよ。

(158) juan se-du-yi=du mini ami-yi (0509CY01)

十 歳-与格-1sg.=附属 私 父-1sg.

mine-we	imaxa-we	waxci-kune-xe-ni.
私-対格	魚-対格	捕る-kune-過去-3sg.

十歳のときから、私の父が私に魚を捕らせた（漁をさせた）。”

- ここで、被使役主が対格または与格として表れる李(2006)の記述とは違い、下記のように被使役主が主格(nominative)の例はどうやって説明できるか？

niani	tomaki	beijiN-tki	ene-kune.	(安1985: 50)
he/she	tomorrow	Beijing-ALL	go-CAUS	

- <表1>でまとめられたように、(1)では被使役主が主格としてのみ、(4)では対格(もしくは与格)としてのみ出現しているが、(2)と(3)では主格と対格(もしくは与格)が全て出現している。これらを区別できる意味的な違いはあるだろうか？

- 続いて書く文法書に出現している-kuneの全ての例文を検討する。

2.2. 各文法書で提示された-kune例文の分布的な特徴

(1) 安俊(1985)

- 計7つの-kuneの例文のうち、

被使役主のみ登場(使役主は登場しない)

被使役主は全て主格標識

- 聴者に対する命令(causative)なのか、もしくは3人称に対する許諾(permissive)なのかは文脈がないため確認が難しい。

ti gurun temteken toxo—kune! (安 1985: 50)

让他们造船!

(2) 尤志贤·傅万金(1987)

- 計28個の-kune例文のうち、被使役主が

対格標識: 17例(再帰人称が付いているケースが5例)

与格標識: 1例

主格標識: 2例

不明(被使役主が出現しない): 8例

*使役主が共に出現している4個の例文では、被使役主は全て対格標識

- 被使役主が主格標識である2例は全て許諾(または放任)として解釈でき、安(1985)で挙げられた7つの例文と構造が一緒である。つまり、使役主が登場しない&被使役主の主格標識&-kune(~kone)にほかの接辞が後行しない。

ti jodulei enirgi ciki du eni-kone 他想回家就让他回去吧。

ti jifekciki du jife-kone 他想吃就让他吃吧。

*祈使式のkoneと使役態の-kuneを区別しているが、例文では意味の違いが見られず同一な形態として分析した。
(李(2006)と同様) cf. gungchengdui we jo oukone 让工程队盖房。

(3) Zhang Yanchang, Zhang Xi & Dai Shuyan (1989)

- 計7つの例文のうち、被使役主が

主格標識: 4例

対格標識: 1例

不明(被使役主が出現しない): 2例

*使役主が出現する1つの例文で被使役主は対格標識

(4) 李林静(2006)

- 計26個の例文のうち、

主格標識: 1例 (p171のmo '木'は、mo-we(対格)の融合である可能性がある)

対格標識: 16例

与格標識: 4例

不明(被使役主が出現しない): 5例

*-kuneを受身の意味として解釈: 1例 (159番)

*使役主が出現した9つの全例文で被使役主は対格標識

3. 中間要約

- (1) 李(2006)で挙げられた1つの疑わしい例文を除外すると、被使役主が主格として出現した13例は

全て人間を指していて(ti gurun, niani, gurun)、使役主は出現しない。また、-kuneに他の接辞が後行しない。

(2) これらは命令または許諾としても解釈できるが、尤・傳(1987)の2例を積極的に考慮すると、3人称のある行動に対しての許諾(permissive)として見る解釈が有力である。ただし、前後の文脈を分らないまま確実な結論に至ることは難しい。

(3) 一方、使役主が出現した14個の例文で被使役主は全て対格標識

(4) 被使役主が対格として出現した例文は前述の3つの研究では人間(sitewe, minewe, nianiuni, gungchengduiwe, gerengungme, asemeni, sineu, sinee, wakSenme, sewunme, tigurunme)としてのみ出現するが、李(2006)では人間の他にも物(mo-we?, muke-we, tergele-we, efun-me, miaucin-me)としても出現可能である。

(5) 被使役主が与格として出現した例について李(2006: 88)は"「見る」、「聞く」、「嗅ぐ」のような感覚を表す動詞に使役接辞が付いた場合、項を3つ取るようになり、対象物は対格、被使役者は与格で標示される。"と記述している。尤・傳(1987: 77)の被使役主が与格標識である例文でも術後が状態動詞のsau- 'know'である。

gia nio du mene baitei siaku saukoneini. 使别人对自己的事情都让知道。

4. 使役態 -wu-と-kune-の区別: 直接使役と間接使役

- 安俊(1985: 49)に記述された使役態の-wu-

"使动态附加成分是-we / -wu。它表示主体促使客体实现某种行为。它要求被驱使者带有宾格标志。

如:

si esixte umingyiwe xeju-we.

你现在让吴明义说。

nianiwe mini orondu em ining imaxa waxci-we.

(你)让他替我打一天鱼。"

- いっぽうで、'祈使式'に属する'允许式' -qune(=kune)についての記述は下記のようなものである。

"附加成分是-qune。它表示第三人称允许的语气，即表达的是说话者允许第三者去完成某种行为。"

安俊(1985: 49)で記述された使役態の-wu-と'允许式'の-quneを比べてみると、前者は使役主が被使役主の行為に直接関与する直接使役として、そして後者は使役主が被使役主の行為に間接的に関与し独立性の高い間接使役として見ることができる。このような区別は多くの言語で確認できる。例えば、

Knott(1988)ではNivkhの2つの使役文を区別している。(Yeon 2011: 23から再引用)

a. If p'az-d'
he undress-Finite
"He undressed (intr.)"

b. 直接使役(-u- suffix plus consonant change in root)

emek p'o:la faz-u-d'
mother her child undress-Caus-Finite
"The mother undressed her child."

c. 間接使役(-gu- suffix)

emek p'o:la-ax p'az-gu-d'
mother her child-Causee undress-Caus-Finite
"The mother made her child undress."

-いっぽうで、尤・傳(1987)で使役態は-kuneだけが記述されたが下記の通り'直接使役'の-wu-に該当する形態も出現していると思われる。

irkin tergeleu titieuren. 给穿上新衣服。(尤・傳 1987: 169)

- 韓国語でも形態的使役(直接使役) -히(-hi-)が結合した例と統語的使役(間接使役) -게 하(-key ha-)が結合した例は被使役主の独立性に違いがあると見られる。

a. ai-eykey/-lul os-ul ip-hi-ess-ta. 아이에게/를 옷을 입혔다.

child-DAT/ACC cloth-ACC wear-CAUS(morphological)-PAST-DECL

b. ai-eykey/-lul/-ka os-ul ip-key ha-ess-ta. 아이에게/를/가 옷을 입게 하였다.

child-DAT/ACC/NOM cloth-ACC wear-CAUS(syntactic)-PAST-DECL

5. 被使役主標識の多様性：意図性(volition)及び統制性(control)の程度

- 多くの言語で、使役文の被使役主がその行為に關与する統制性の程度を基準として区別された文法標識が使われている。(Delancey 1984, Yeon 2011: 42から再引用)

英語

a. I made him fall.

b. I had him fall.

日本語

a. Taroo-ga Ziroo-o ik-aseta.

Nom ACC go-Caus

"Taroo made (forced) Ziroo go."

b. Taroo-ga Ziroo-ni ik-aseta.

Nom Dat/Inst go-Caus

"Taroo got (persuaded) Ziroo to go."

- aは被使役主に与えられる統制が強く被使役主の意図が弱い反面、bは比較的統制が弱く被使役主の意図が強いことがわかる。

6. 要約とホジェン語の使役態の歴史的变化についての仮説

(1) 要約

- ホジェン語のKilen方言を扱った4つの文法書は、-kuneと使役態について相違ある記述をしている。
- 安(1985)では-kuneと共に出現する被使役主が主格としてのみ出現する反面、使役態 -wu-は被使役主が対格として出現する。これはそれぞれ間接使役と直接使役の違いと見られる。
- 一方で、李(2006)は被使役主が対格または与格としてのみ出現し、-kuneと区別できる使役態の-wu-が出現しないと記述している。
- 尤・傳(1987)は被使役主が主格、対格、与格としてすべて出現できると記述し、-kuneと区別できる使役態の-wu-は記述していないが、例文により直接使役に使われる-wu-があるということを見出した。

(2) ホジェン語の使役態の歴史的变化についての仮説

- ただの仮説ではあるが、安俊(1985) > 尤・傳(1987) > 李(2006)の順で行われた言語変化を推定してみることができる。
- 即ち、既存の使役態の-wu-が新しい使役態の-kune-により代替される過程で、前者は直接使役として、後者は間接使役として使われるように分化され、李(2006)でのコンサルタントの時期に至っては-wu-がもう使用されず化石型として残り-kuneが直接使役と間接使役を両方含む独占的な使役態として使われるようになった。
- ただ、李(2006)で挙げたように感覚動詞などの場合被使役主が与格標識として出現するのは、同じく相対的に強い意図性(もしくは弱い統制性)という側面で対格標識の被使役主と区別しようとしていると見られる。

参考文献

DeLancey, S. (1984). Notes on agentivity and causation. *Studies in Language*. International Journal sponsored by the Foundation "Foundations of Language", 8(2), 181-213.

Knott, Judith M. (1988). The Leningrad Group for the Typological Study of Languages: Introduction and translations by J. M. Knott. *SOAS Typology Project 1*. University of London.

Yeon, Jaehoon (2011). *A Typological Study on Korean Grammatical Constructions*. Paju: Taehaksa. [In Korean]

凌純聲(1934)『松花江下游的赫哲族』南京：國立中央研究院歷史語言研究所。

安俊(1985)『赫哲語簡志』北京：民族出版社。

尤志賢·傅萬金(1987)『簡明赫哲語漢語對照讀本』哈爾濱：黑龍江省民族研究所。

Zhang Yanchang, Zhang Xi & Dai Shuyan (1989). *The Hezhen language*. Changchun: Jilin University Press.

李林靜(2006)「ホジェン語の動詞構造」千葉大學博士學位論文。